若手僧侶に関する動向調査
意識調査アンケートの結果報告（安居中の掛搭僧）

曹 洞 宗 宗 務 庁
人事部運営企画室

◆調査の目的

運営企画室では、「若手僧侶に関する動向調査」（2023 年 12 月曹洞禅ネットなどに掲載）を実施し、得度や若手僧侶の減少、その速度が国の人口減少を上回るほど深刻であることを報告した。これに関連して、本調査は宗門の若手僧侶にしてアンケート形式の意識調査を実施したものである。10 代から 30 代の若手僧侶及び僧侶を目指そうとしている方が、寺院や僧侶に対して、今どのような考え方をしているのか意識調査を行い、曹洞宗宗務庁における業務の基礎資料として活用することを目的としている。

◆調査の概要

10 代から 30 代の若手僧侶及び僧侶を目指そうとしている方を、安居経験者、安居中の掛搭僧、安居未経験者の 3 グループに分け、それぞれに応じた調査を実施する予定としている。本稿では、この内の安居中の掛搭僧に対する意識調査アンケートの結果を報告する。なお、本調査とは別に、すでに安居を経験した 10 代から 30 代の僧侶に対する意識調査（2024 年 2 月曹洞禅ネット等に掲載。以下、安居経験者向け調査という。）を行っている。

◆調査の方法

両大本山の 10 代から 30 代の掛搭僧に、自記式で無記名のアンケートを実施した。
調査期間は 2024 年 1 月 26 日（金）～2024 年 2 月 29 日（木）。
調査票回収数は 140 件であり、すべて有効回答とした。

※図表中の「n」は、設問に対する回答者の総数。
※図表中の構成比（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入している。
※複数回答と記載していない設問は、すべて単一回答。

◆回答者の属性

（Q1）性別

(n=140)

	回答数	%
男性	140	100.0
女性	0	0
回答しない	0	0

（Q2）年齢

(n=140)

	回答数	%
20歳未満	1	0.7
20～24歳	91	65.0
25～29歳	38	27.1
30～34歳	8	5.7
35～39歳	2	1.4

（Q3）配偶者の有無

(n=140)

	回答数	%
いる	5	3.6
いない	132	94.3
回答しない	2	1.4
未回答	1	0.7

（Q4）子どもの有無

(n=140)

	回答数	%
いる	4	2.9
いない	134	95.7
回答しない	2	1.4

（Q5）実家は曹洞宗寺院か

(n=140)

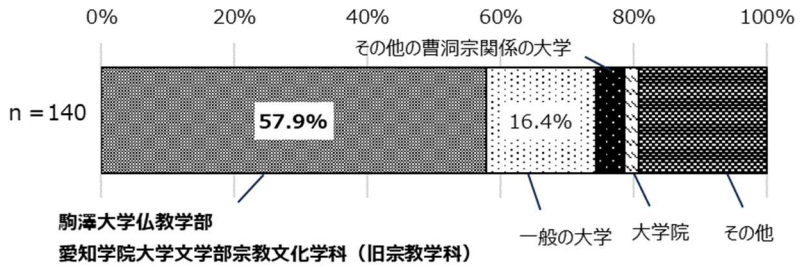
	回答数	%
曹洞宗寺院である	133	95.0
曹洞宗寺院でない	7	5.0

（Q6）教師資格

(n=140)

	回答数	%
教師資格あり	21	15.0
教師資格なし	117	83.6
未回答	2	1.4

（Q7）最終学歴



(n=140)

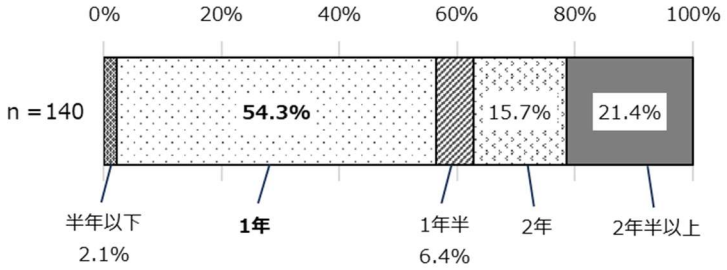
	回答数	%
一般の高等学校	18	12.9
曹洞宗関係の高等学校	3	2.1
一般の短期大学（専門学校・高専を含む）	3	2.1
一般の大学	23	16.4
駒澤大学仏教学部・愛知学院大学文学部宗教文化学科（旧宗教学科）	81	57.9
その他の曹洞宗関係の大学	6	4.3
大学院	3	2.1
その他	2	1.4
未回答	1	0.7

（Q8）出身地

(n=140)

	回答数	%
北海道	10	7.1
東北	35	25.0
関東	28	20.0
中部	37	26.4
近畿	12	8.6
中国	3	2.1
四国	4	2.9
九州沖縄	9	6.4
未回答	2	1.4

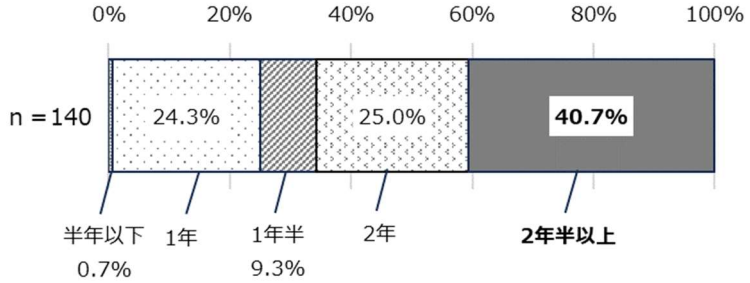
（Q9）現時点でおよそどのくらいの期間安居したか。



(n=140)

	回答	%
半年以下	3	2.1
1年	76	54.3
1年半	9	6.4
2年	22	15.7
2年半以上	30	21.4

（Q10）どのくらいの期間安居する予定か。



(n=140)

	回答	%
半年以下	1	0.7
1年	34	24.3
1年半	13	9.3
2年	35	25.0
2年半以上	57	40.7

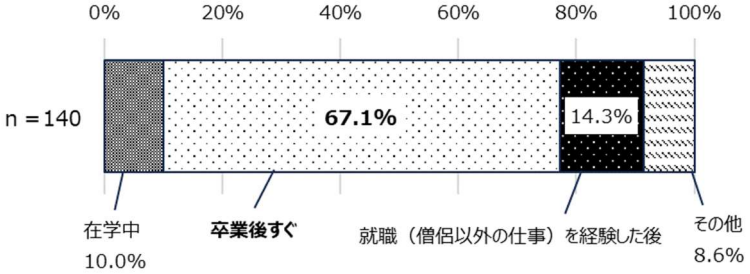
◆安居をしている者は概ね僧侶として活動しようと考えている

まず、掛搭僧の安居のタイミングや安居後の予定について確認していく。安居に行った時期は「卒業後すぐ」が約７割と最も多く、安居経験者向け調査と同様の結果であった。

また、安居後に僧侶以外の仕事に就職するかについては、「はい」が 23.6%、「いいえ」が 42.1%であったが、「未定」が 34.3%と安居後のことを明確に定めていない人も多いといえる。

さらに、将来的に僧侶として活動したいかをたずねると、「はい」が 85%と大部分を占め、「いいえ」の回答はなかった。安居をしている者は概ね僧侶として活動しようと考えている人であることが確認できた。一方、少数ではあるが「わからない」と考えている人もいることが確認できた。

（Q11）いつ安居したか。



(n=140)

	回答	%
在学中	14	10.0
卒業後すぐ	94	67.1
就職（僧侶以外の仕事）を経験した後	20	14.3
その他	12	8.6

（Q12）安居後に僧侶以外の仕事に就職するか。

(n=140)

	回答	%
はい	33	23.6
いいえ	59	42.1
未定	48	34.3

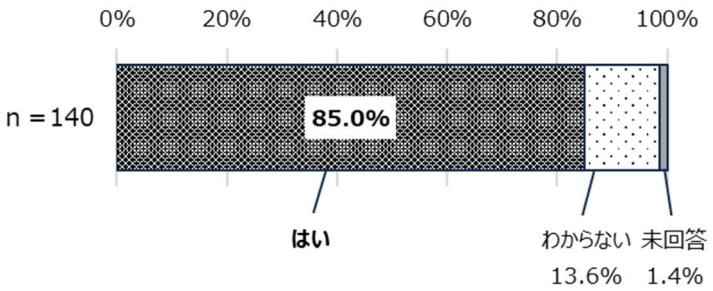
（Q13）僧侶以外の仕事に就職する理由。

※（Q12）で「はい」と回答した人のみ

(n=33)

	回答	%
生活のための収入を得るため	14	42.4
収入には関係なく僧侶以外の仕事を経験したかったから	14	42.4
どちらでもない	4	12.1
未回答	1	3.0

（Q14）将来、僧侶として活動したいか。



(n=140)

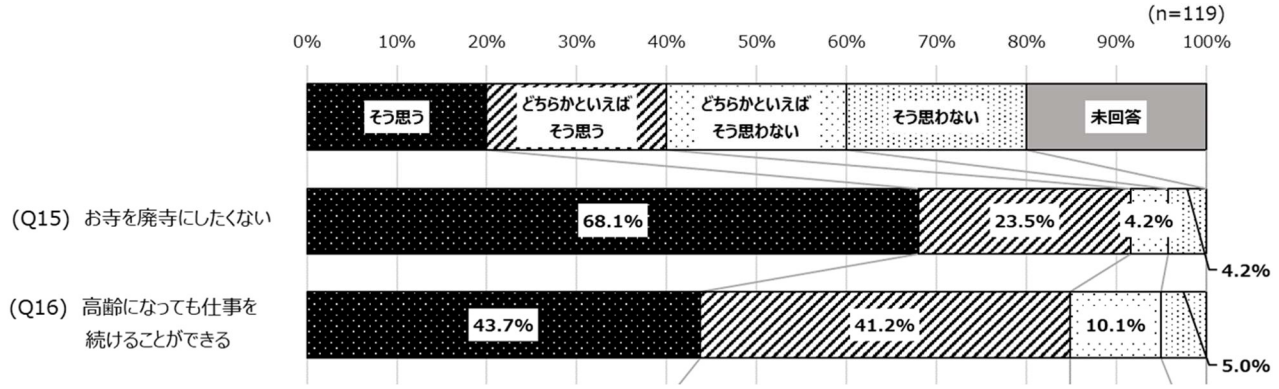
	回答	%
はい	119	85.0
わからない	19	13.6
未回答	2	1.4

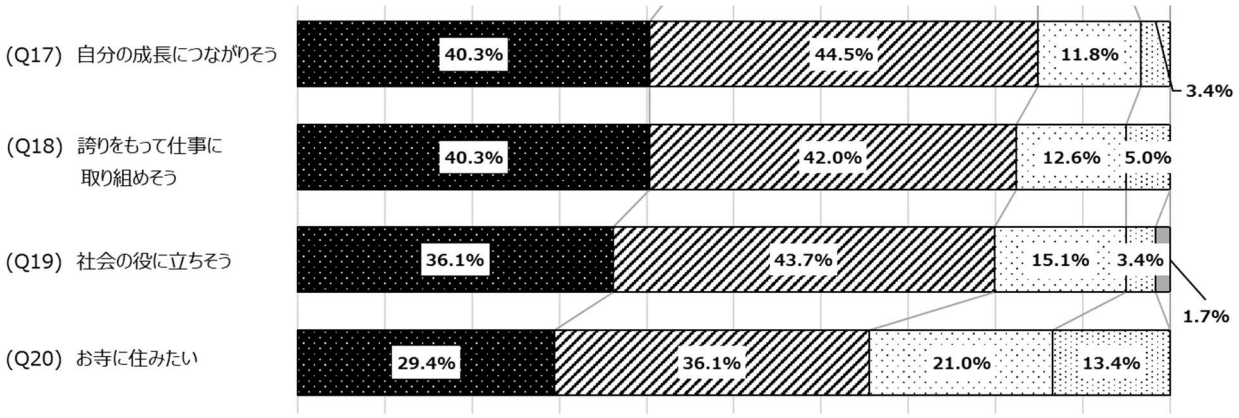
（Q15）以降の設問は、僧侶として活動したいと回答した人と、僧侶として活動するかわからないと回答した人に設問を大きく分けて調査を行った。まずは、僧侶として活動したいと回答した 119 人についての調査結果をみていく。

◆僧侶として活動したいと回答した人の僧侶に関する意識

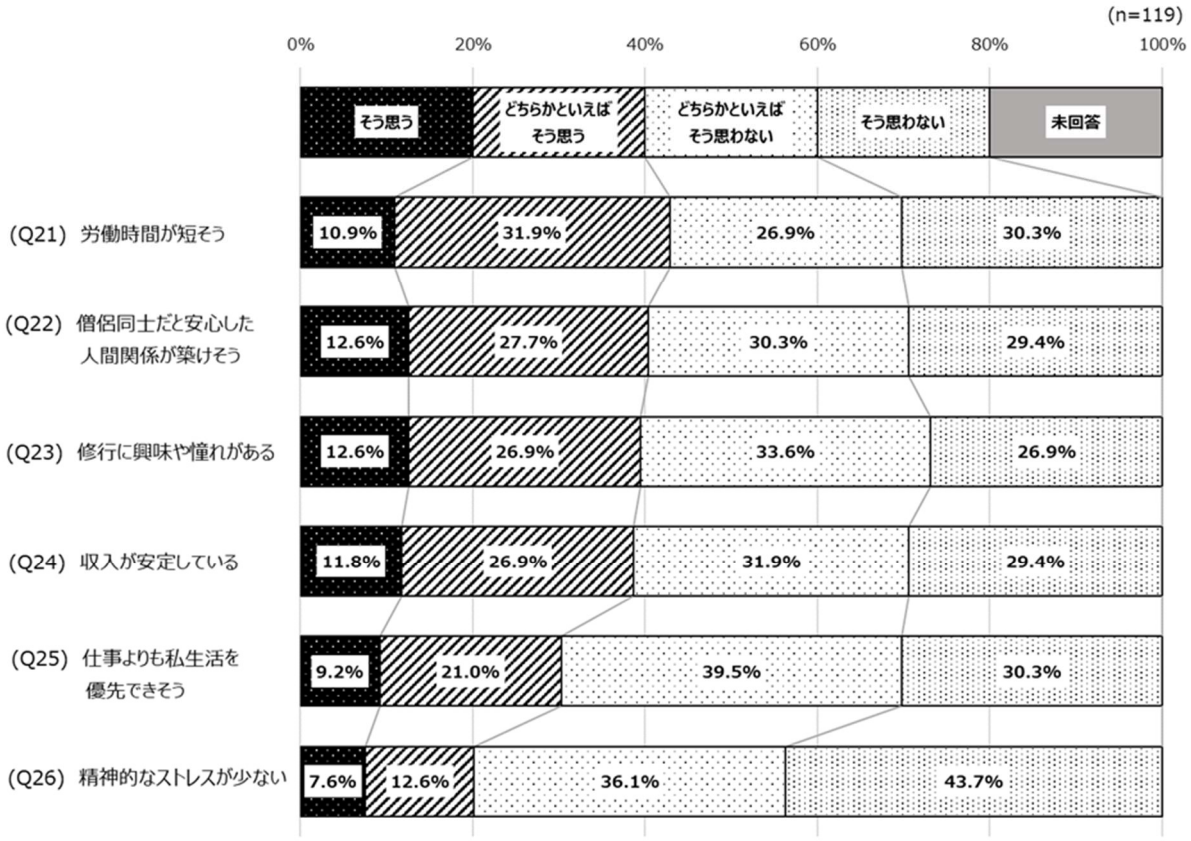
前述のとおり、今回の調査では回答者 140 人のうち 119 人は「将来、僧侶として活動したい」と回答していた。上記の 119 人に、僧侶に関してどのような考えを持っているのか（Q15）～（Q35）の 21 項目を挙げ、自分の考えにどの程度あてはまるか 4 段階評価でたずねた。

まず、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が 6 割半～9 割と多かった項目は以下の通りである。この中で、「（Q15）お寺を廃寺にしたくない」は「そう思う」という明確な回答が 68.1%と最も多く、「どちらかといえば、そう思う」を含めれば約 9 割にも及んでいた。また、（Q17）～（Q19）も肯定的な意見が約 8 割を占め、僧侶という職業を通して自己成長や社会貢献に期待を抱いていることが分かった。

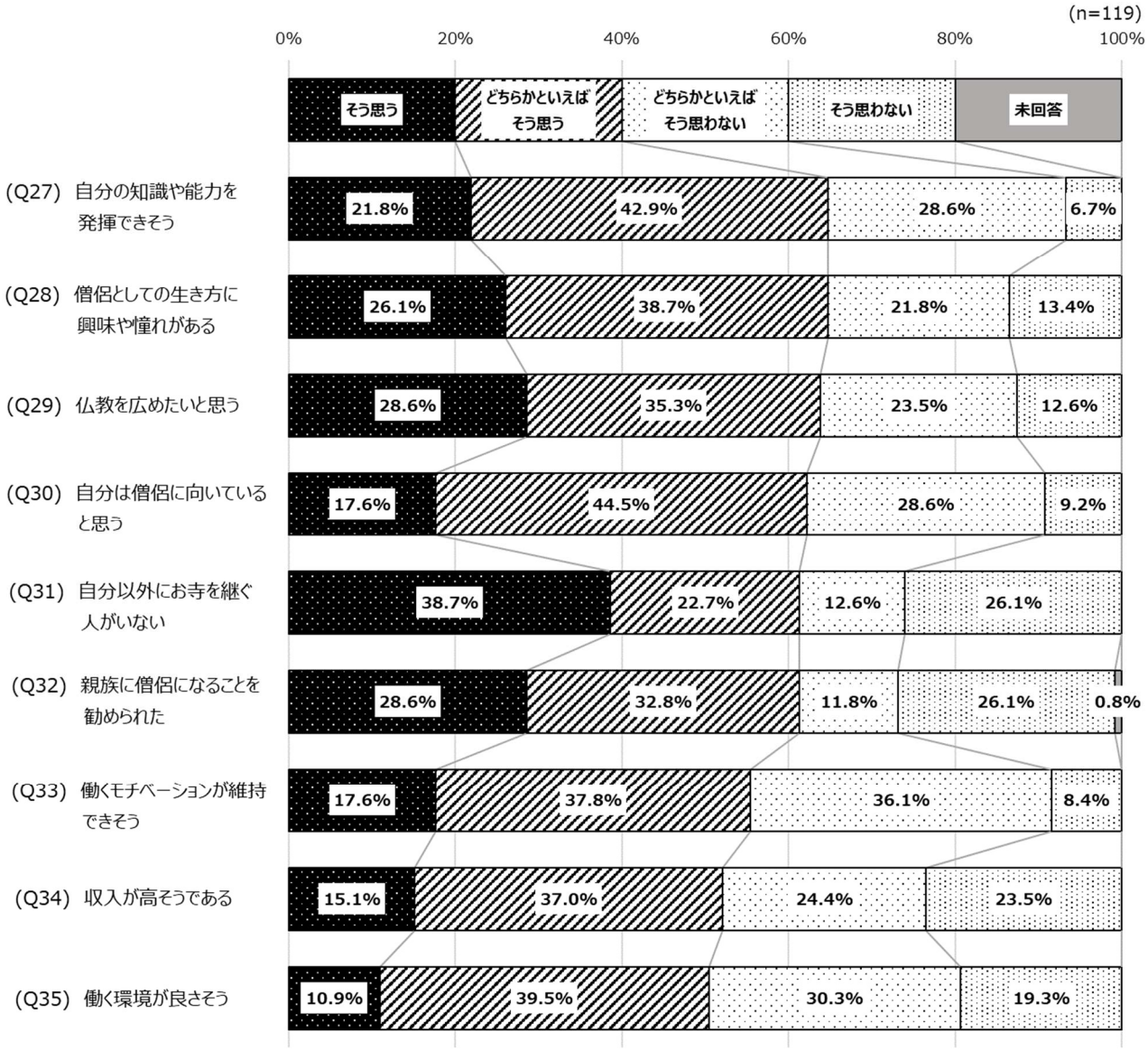




次に、「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」が 6 割～8 割程度と多い項目は以下の通りである。「(Q21) 労働時間が短そう」「(Q25) 仕事よりも私生活を優先できそう」「(Q26) 精神的なストレスが少ない」といった労働環境を表す項目は否定的な回答が多く、修行への興味や憧れも否定的な回答のほうが多い結果であった。



続いて、肯定と否定の回答が同程度であった項目は以下の通りである。その中で、「(Q28) 僧侶としての生き方に興味や憧れがある」「(Q29) 仏教を広めたいと思う」といった宗教者としての意識や、「(Q27) 自分の知識や能力を発揮できそう」「(Q30) 自分は僧侶に向いていると思う」といった自身の適性、「(Q31) 自分以外にお寺を継ぐ人がいない」「(Q32) 親族に僧侶になることを勧められた」といった自分以外からの影響については、比較的肯定的な回答のほうが多かった。



◆約９割は後継予定の寺院が決まっている

次に、後継予定の寺院について確認していく。僧侶として活動予定の 119 人のうち約 9 割は後継予定の寺院が決まっていると回答があった。後継予定の寺院の住職との関係性については、「実父/実母」が大多数を占めていた。後継予定の寺院の経済状況については、安定していると思うと回答したのは約 6 割、安定していると思わない、どちらともいえないと回答したのはそれぞれ約 2 割であった。

（Q36）将来、後継する寺院は決まっているか。

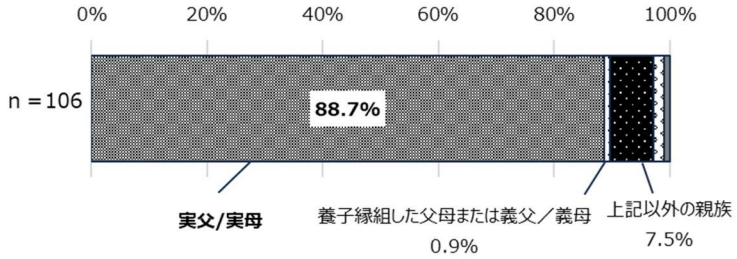
※（Q14）で「はい」と回答した人のみ

(n=119)

	回答	%
決まっている	106	89.1
決まっていない	7	5.9
未定	5	4.2
未回答	1	0.8

（Q37）後継する寺院の住職との関係性。

※（Q36）で「決まっている」と回答した人のみ



（n=106）

	回答	%
実父／実母	94	88.7
養子縁組した父母または義父／義母	1	0.9
上記以外の親族	8	7.5
その他	2	1.9
未回答	1	0.9

（Q38）後継する寺院は経済的に安定していると思うか。

※（Q36）で「決まっている」と回答した人のみ

（n=106）

	回答	%
はい	60	56.6
いいえ	23	21.7
どちらともいえない	22	20.8
未回答	1	0.9

◆専門的な知識や技能について

僧侶には専門的な知識や技能が求められているかの設問に、9 割以上が肯定的な意見を持っていた。さらに、必要だと思う知識や技能を複数回答形式でたずねた結果、すべての項目に対して半数以上の回答者が必要と回答しており、全体的に安居経験者向け調査の結果と同じ傾向であった。なお、必要だと思う知識や技能について自由記述を設けたところ、10 件の記述があり、コミュニケーション能力が 4 件、その他には一般教養などが挙げられた。

（Q39）僧侶には専門的な知識・技能が求められていると思うか。

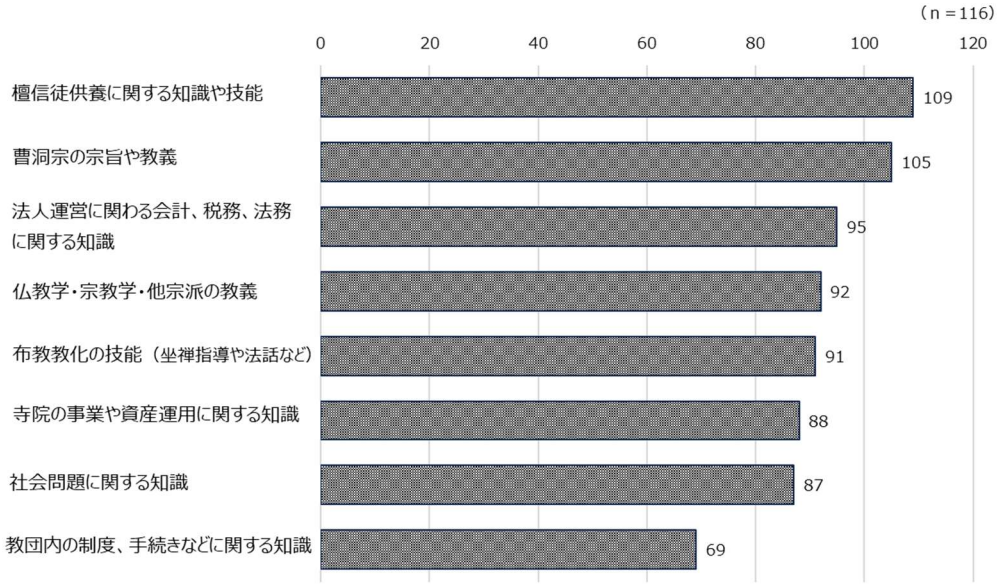
※（Q14）で「はい」と回答した人のみ

（n=119）

	回答数	%
そう思う	83	69.7
どちらかといえば、そう思う	33	27.7
どちらかといえば、そう思わない	3	2.5
そう思わない	0	0

（Q40）僧侶には専門的な知識・技能が求められていると思うか。（複数回答）

※（Q39）で「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した人のみ



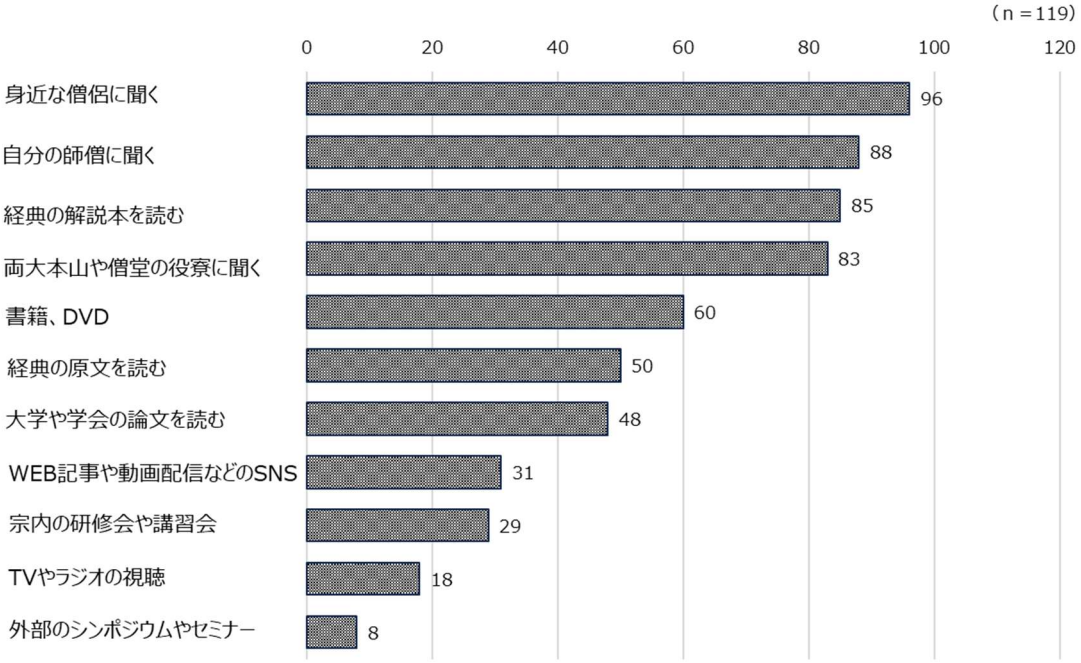
◆学習手段について

さらに、僧侶として学習を行う際に利用している手段を複数回答形式でたずねた。「身近な僧侶に聞く」「自分の師僧に聞く」が上位に位置しているのは安居経験者向け調査の結果と同様であるが、掛搭僧は環境上、「両大本山や僧堂の役寮に聞く」も上位であった。

また、僧侶としての学習を行う際に利用している手段について自由記述を設けたところ、5 件の記述があり、海外での現地学習、実践や経験をすることなどが挙げられた。

（Q41）僧侶としての学習を行う際に利用している手段。（複数回答）

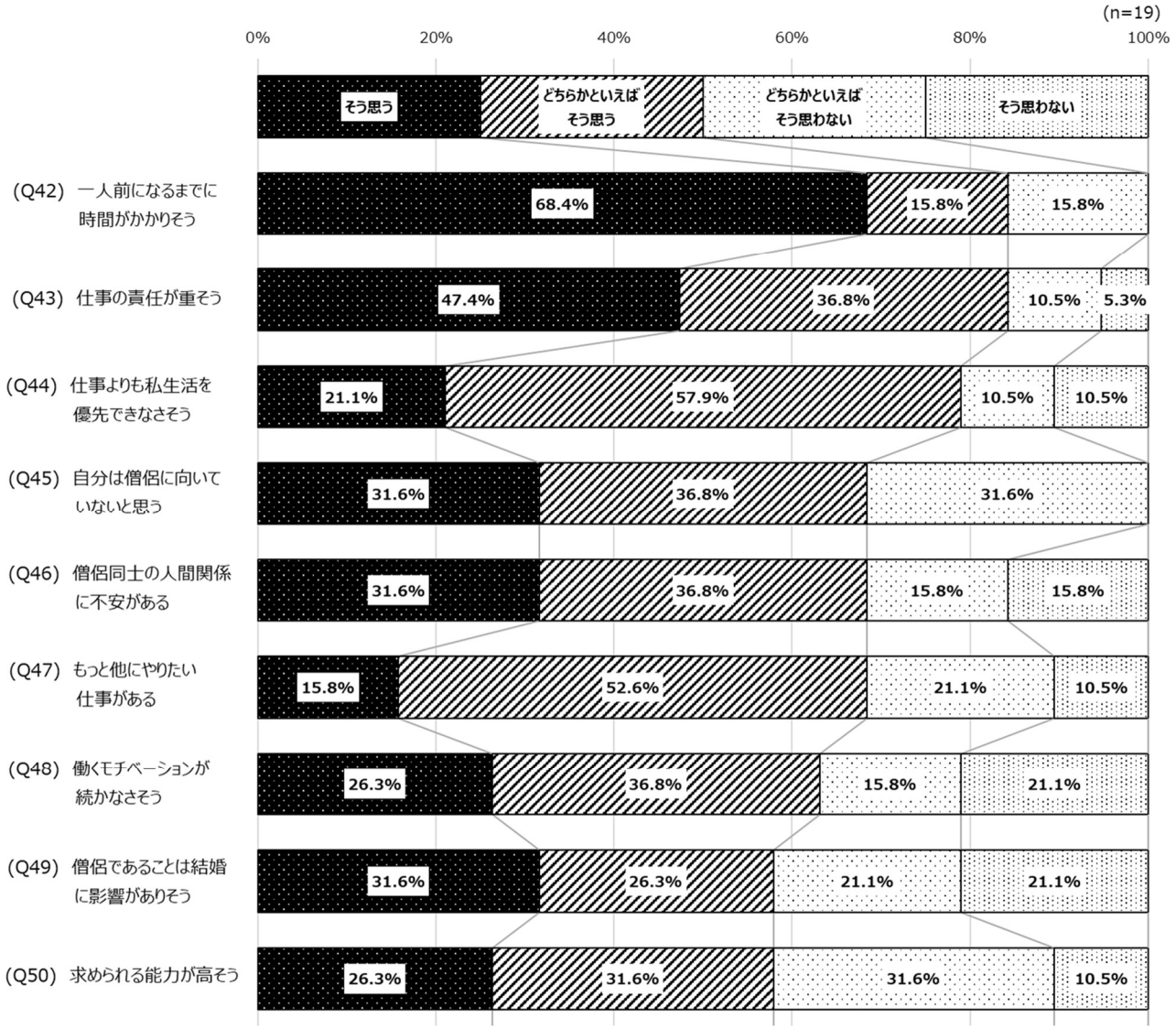
※（Q14）で「はい」と回答した人のみ

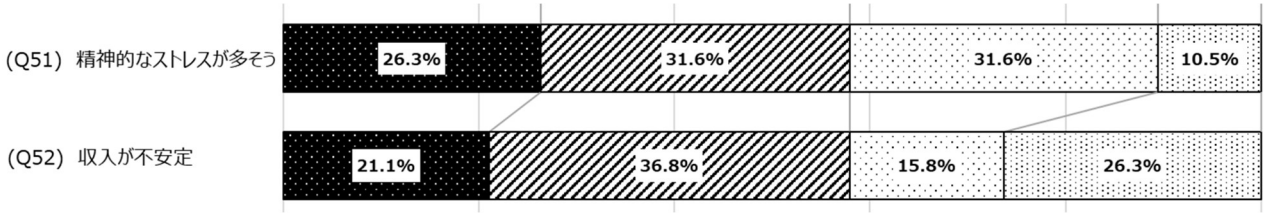


◆僧侶として活動するか「わからない」と回答した人の僧侶に関する意識

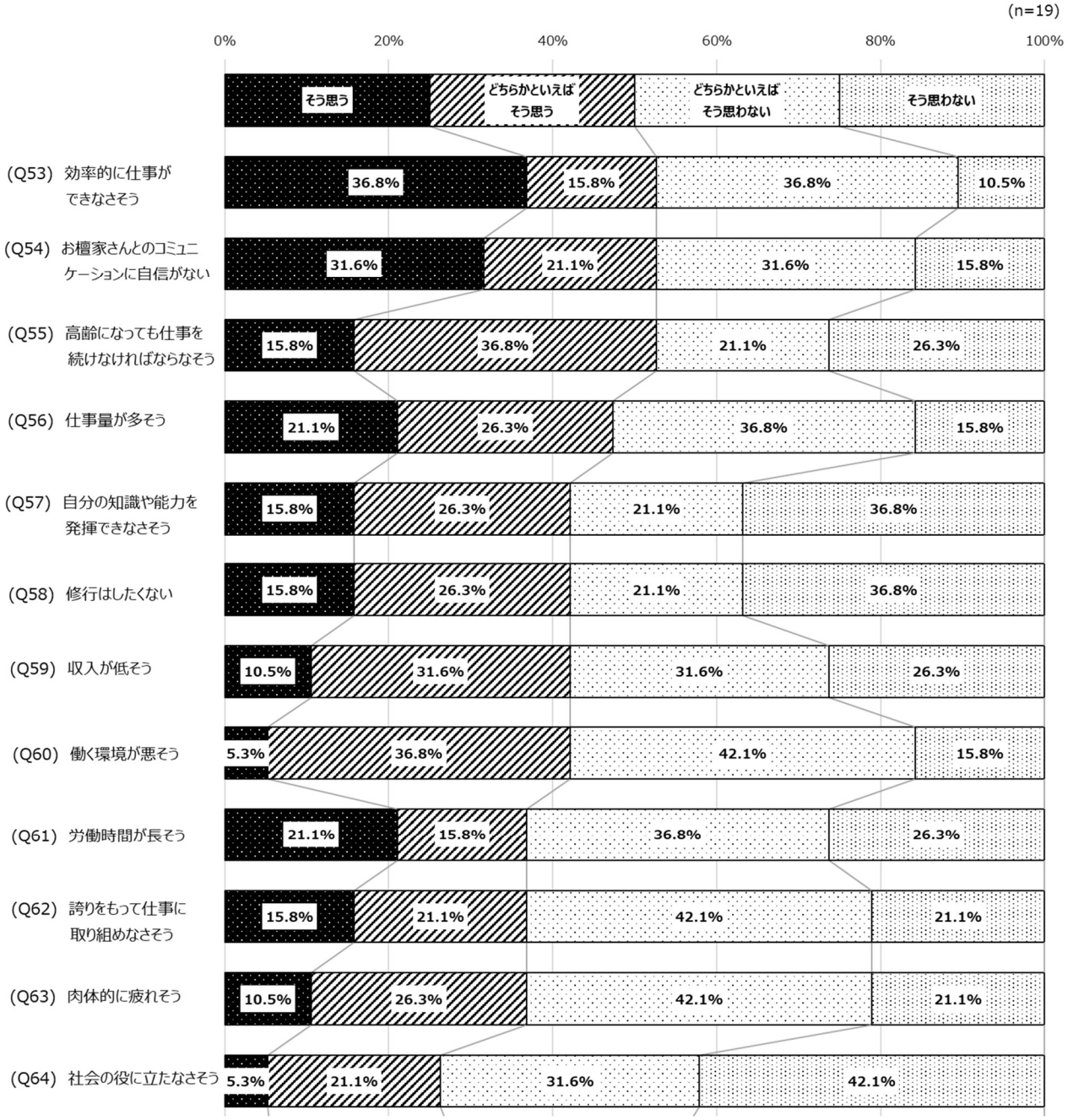
今回の調査では、回答者 140 人のうち 19 人は将来、僧侶として活動するか「わからない」と回答していた。上記の 19 人に、僧侶になることを選択しない、あるいは迷う要因となりうる項目を(Q42)～(Q72)の 31 項目を挙げ、どの程度あてはまるか 4 段階評価でたずねた。

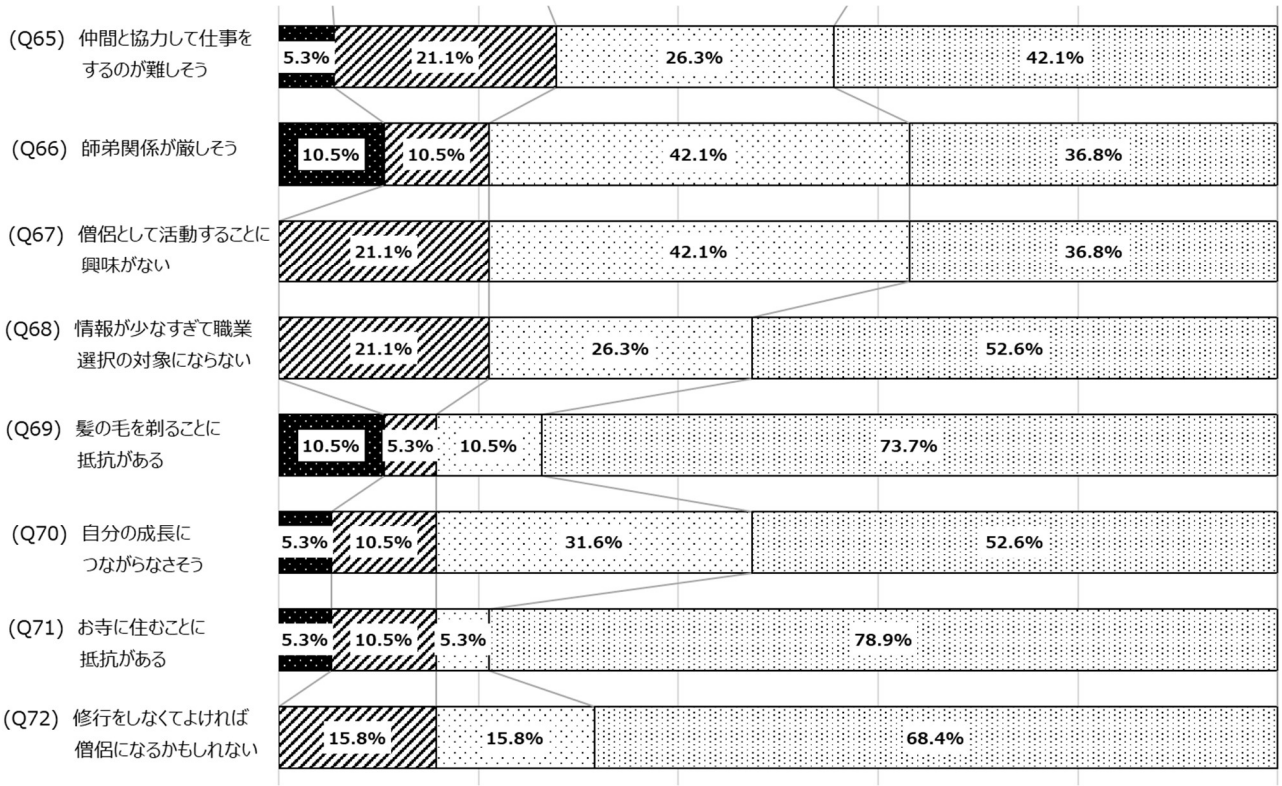
まず、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が約 6 割～8 割と多く、僧侶になることを選択しない、あるいは迷う要因として考えられる項目は以下の通りであった。「(Q42) 一人前になるまでに時間がかかりそう」は「そう思う」が 68.4%と明確な回答が特に多く、他にも「(Q43) 仕事の責任が重そう」「(Q44) 仕事よりも私生活を優先できなさそう」も肯定的な意見が 8 割程度と高い傾向であった。さらに、「(Q45) 自分は僧侶に向いていないと思う」「(Q46) 僧侶同士の人間関係に不安がある」も肯定的な意見が 7 割を占めている。「(Q47) もっと他にやりたい仕事はある」も同じく多く、他の職業への興味や関心も持ち合わせていることが伺える。





その他の項目は、肯定的な意見が少なく、以下の通りであった。その中でも、「(Q53) 効率的に仕事ができなさそう」「(Q54) お檀家さんとのコミュニケーションに自信がない」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」は約５割だが、そのうち「そう思う」と回答した人の割合は比較的多いと言える。





〈本調査に関するお問い合わせ〉
曹洞宗宗務庁　人事部運営企画室
TEL：０３－３４５４－５４１１

本レポート及び運営企画室の各種レポートは「曹洞禅ネット」にも掲載しています。